



木 木 木

千葉県 TEACCH プログラム研究会

2023年10月8日(日) 第123号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内

TEL :043-227-8557



第3回 連続セミナー

演題：「特別支援学校における自閉症教育

—「基礎・基本」と「チーム指導の手立て」—

講師：宮野 雄太 氏 横浜市港南台ひの特別支援学校教員

今回は、筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群リハビリテーション科学学位プログラム博士後期課程に在籍され、横浜市の特別支援学校において自閉症スペクトラム障害(以下ASD)がある方への指導・支援の経験が豊富な宮野氏からグループ討議や活動を取り入れたお話をいただきました。

○ 知的障害教育とは…

特別支援学校学習指導要領を踏まえると知的障害教育とは生活重視と言える。知的障害の特別支援学校では、ASDのある子どもの在籍率は約4割であることから、構造化ともいえる帯型の日課編成(時間の構造化)や実物・具体物を用いた環境(物理的構造化)を設定し、日課や学習環境を分かりやすくすることで生活スキルを習得できるように工夫している。また、以下のような評価ツールを用いることで施設や学校における自閉症支援の質を確かめることができる。

- ・ The Environmental Rating Scale (ERS)：入所施設の構造化の質を確かめるための尺度
- ・ Autism Program Environment Rating Scale (APERS)：学校の構造化の質を高めるために評価する尺度
- ・ 全自者協研究事業版ERS：コンサルタント用簡易チェックリスト

○ 実際の事例より

自発的で明確なコミュニケーションを促す支援

今回は、小学部3年生のAさんが毎日持ち帰る宿題が自分の棚に用意されていない場面でセンテンスカードを読み上げて伝えられるよう支援したことから発展し、自発的で明確なコミュニケーションを促した実践例をご紹介します。

Aさんは、学校では一語文でのやりとりが主で、質問への応答が苦手な様子が見られた。また、家庭では食事の際「おかわり」の明確な言葉が出なかったり、家族の「おかえり」の言葉にオウム返して答えたりする様子が見られた。

両支援ともに、TTAPや個別の指導計画(IEP)を根拠に目標や指導課題を設定した。

…新しく教えたこと…

- ① 限定された場面で自分から足りないものや必要なものを明確に要求する。
- ② 適切な挨拶をする。

…構造化でサポートしたこと…

- ① 「しゅくだいをください」「おかわり」「ただいま」と書かれたセンテンスカードを読み上げることで、曖昧で間接的な言い方から、はっきりとした表現で言うことができるようにした。
- ② 限定的な場面(自分の棚の中にあるべき宿題がない場面や食事場面でのおかわり、お迎え時のやりとり)等を設定して必要なものを明確にした。

余暇スキルの拡がいを促す支援

休み時間に友だちがトランプをしていると覗き込み、参加はしたいがなかなか参加することができない様子が見られた。余暇スキルの拡がりを目指し、トランプのババ抜きで遊べることを目標とした支援を行った。

・・・新しく教えたこと・・・

- ①ババ抜きの勝ち条件と必要な概念(ペアをつくる、カードをひく・すてる等)を視覚的支援を用いて教える。
- ②視覚的支援を用いて、絵柄の概念を教える。

・・・構造化でサポートしたこと・・・

- ①ババ抜きの概念を習得する段階で視覚支援を用いる。併せてペアのカードを「すてる」場所の判断ができるように視覚的構造化を図った。

今回、特別支援学校での構造化やチームで指導を行う際の手立てについて、実践例を挙げながらお話しいただきました。TTAPの結果や個別の指導計画を通して児童生徒の目標と指導課題を明確にし、尺度を活用して自閉症支援の質を評価する、チームで指導内容を共有するといった、よりよい指導・支援のための方法をご教授いただきました。

令和5年度千葉県 TEACCH プログラム研究会第4回連続セミナー講師紹介

演 題：「構造化を用いた家庭での取り組み
－ASD・重度知的障害 発達と療育の記録－」

講 師： 國則 由美子 氏 (保護者)

重度知的障害・ASDの息子さんとADHDの娘さんをもつお母さんです。
沖縄県立那覇高等学校 衛生看護科卒(平成15年度閉科)を卒業されました。
現在は、通信制大学の心理学部に在学し、学ばれています。

令和5年度千葉県 TEACCH プログラム研究会 実践セミナーについて

日 時：令和5年11月19日(日) 10:00～16:00 (9:30受付)

10:00～12:00 講 義：「自立課題について」

13:00～16:00 自立課題の作成実習 発表 講師助言

講 師：田熊 立 氏 (千葉県発達障害者支援センター副センター長)

講 師：千葉県教育会館6階 604会議室

参加費：会員 3,500円 非会員 5,000円

申込方法：令和5年9月2日(土)～ 定員：20名

令和5年度千葉県 TEACCH プログラム研究会第5回連続セミナーについて

日 時：令和5年12月2日(土) 14:00～16:30 (13:30受付)

内 容：「障害のある人のきょうだい支援の必要性とその支援」(仮)

講 師：滝島 真優 氏 (成蹊大学特別研究員/きょうだい会SHAMS代表)

会 場：千葉県教育会館303会議室(予定)

※オンデマンド動画配信 配信期間：12月8日(金)～12月24日(日)

【編集後記】暑さが徐々に過ぎ、虫の声や草花に秋を感じる季節となりました。コロナ感染症も5類化となり、特別支援学校では学校祭、小中学校では音楽会や陸上大会など、大勢が集まる行事を予定している学校も多いのではないのでしょうか？

本研究会のセミナーも、会場に足を運んでくださる方が戻ってまいりました。特に、今回はグループで活動する楽しさを味わうことができ、対話を通して学びを深める喜びを再確認する回となりました。

今後、会員の皆様と会場でお会いできることを楽しみにしております。(加藤)